

GENROO

Car Entertainment Magazine

[ゲンロク]

ゲンロク 2018年8月号 (毎月26日発売)
6月26日発売 No.390 第33巻第8号

2018
AUG
No.390
8
定価 860Yen

THE WILD SUV

新型Gクラスの真価

国内初試乗! その実力を斬る

新旧比較で探る、39年の進化

独自の世界観が放つ魅力 ディフェンダー&ラングラー



アストンマーティン・ヴァンテージ
500kmツーリング

フェラーリ488ピスタ海外試乗

ピュアスポーツ・ポルシェの選択
718ケイマンGTS vs 911カレラ

European car特選ショップ

Built to inspire

Innovative design and high standard defines HYPERFORGED WHEELS.
Nothing is compromised in the making of these highquality wheels and it shows.
Travel in style with HYPERFORGED.

HF-LC5"center/lock
Disk finish:Brushed Anodized Light Bronze
Rim outer finish:Light Bronze Anodized/Gloss Rim inner finish:Matte Anodized Black
12 Point Stainless Bolt Classical F:9.0Jx20 SemiConcave R:13.0Jx21 DeepConcave
Pirelli P-Zero L F:255/30-20 R:355/25-21
Lamborghini Aventador LP740S
Special thanks : [Zank](#) [www.ap-dank.com](#) [PRO COMPOSITE](#) [www.pro-composite.jp](#)

► DiC concave
NEW

19" 20" 21" 22" ► The RIM:Reverse

► LC5 concave

19" 20" 21" 22" ► The RIM:Reverse

► LC5 Centerlock

19" 20" 21" 22" ► The RIM:Reverse

► C5.2 concave

20" 21" 22" ► The RIM:Reverse

► C7 concave

19" 20" 21" 22" 24" ► The RIM:Reverse
21" ► The RIM:Step

► C10 concave

19" 20" 21" 22" ► The RIM:Reverse
21" ► The RIM:Step

► 24S

19" 20" ► The RIM:Reverse
20" 21" ► The RIM:Step

► 27S

19" 20" ► The RIM:Reverse
20" 21" ► The RIM:Step

► 25S

19" 20" ► The RIM:Reverse
20" 21" ► The RIM:Step

► 105R

19" 20" 22" ► The RIM:Reverse
21" ► The RIM:Step

► 109R

19" 20" ► The RIM:Reverse
21" ► The RIM:Step

ホワイトとシルバーの2トーンで彩られたボディカラーとHF-DiCとが調和する。ロールス・ロイスとハイパーフォード、それぞれのビスポークがお互いを引き立て合う。

PARTS LIST

19インチ(7.5J~14.0J)	13万6000円~18万9000円
20インチ(7.5J~15.0J)	14万7000円~20万6000円
21インチ(7.5J~14.0J)	17万7000円~24万8000円
22インチ(8.5J×14.0J)	22万4000円~34万9000円

※価格は税別。



ポリッシュ系以外にハイパーフォードが得意とするのがアナダイズド加工。アルミの質感を活かしたマット処理や、ヘアラインを残したブラッシュドの上から施されるブラッシュド・アナダイズド。サンドブラックを使って梨地にしたショットアナダイズドもある。

史上もっともパワフルな動力性能を誇る2ドアクーペだ。搭載されるエンジンには6・6ℓのV型12気筒ツインターボ。最高出力は632psと、ロールス・ロイスの世界観を保ちながら、最新のスーパースポーツカーに匹敵する性能を持っている。こうしたスポーティなロールス・ロイスとしての性格を際立たせるために、投入されたのはHF-DiCだ。ハイパーフォードとして初の左右非対称（アシンメトリ）パターンを採用するHF-DiCは、止まっている時も走りを感じさせるような造形が特徴だ。まさにレイスの世界観には相応しい銘柄だと思ふ。

サイズは前後ともに10・5J×22インチ。純正比で2インチアップだが、全長5280mm、全幅1945mmというボリュームのあるファストバックボディの中では、まったく違和感がない。組み合わせられるタイヤはコンチネンタル・スポーツコンタクト6の、前後ともに295/30サイズである。

そしてフィニッシュも見ものだ。この個体はインナリムをアナダイズドブラックで落とし込み、アウトタリムをハイポリッシュに、ディスクは眩いミラーポリッシュとして豪華さを出した。スポーティな造形を持つからこそ、フィニッシュで煌びやかな雰囲気を持たせてロールス・ロイスの世界観とマッチさせる見事なコーディネートだ。



HYPER FORGED HF-DiC for Rolls-Royce Wraith

伝統と革新の狭間にある ビスポークの共演

戦 前から真の高級車を設えてきたその重みは、時が流れ資本が変わり、またクルマづくりが変貌を遂げても、依然とそこにある。真の高級車という、数値的な勝負ではないその世界観こそロールス・ロイスの魅力だ。そう認識するからこそ、ハイパーフォードは全身全霊をかけて自らの製品を調和させた。彼らは常に、上質で細かいオーダーメイド体制を持って、アツバークラ

世界中のホイールメーカーや、または鋭敏なカスタマイザーの努力によって、今こそロールス・ロイスのカスタムは、さほど珍しいものではなくなった。とはいえホイールに焦点を当てると、それがアフターであつても常に純正ホイールを意識したようなデザインが数多く見受けられた。ホイールが回転しようとも常に地面に対してロゴが直立するロールス・ロイス流センターキャップを流用するなどいい例だ。それらは確かに、ロールス・ロイスをリスベクトする意味で正しい。ただ今回の例のように、ハイパーフォードでガリリと足元の印象を変えてもいい。そう再確認させてくれるようなカスタム例である。

ロールス・ロイスが提供するビスポークの世界に則って、世界に1台自分だけの仕様を手にするのなら、そこからあと一歩踏み出して、より

スポーティかつエレガントなロールス・ロイスを手に入れる。そうしたニーズにハイパーフォードは、全身全霊をかけて協力してくれるホイールメーカーだ。このように固有の世界観を汲み取った唯一無二の仕様となる。もちろん、今回取り上げた1台はほんの一例だ。ボディカラーやユーザーの趣味嗜好、あるいは日常での使い方をなどを考慮したうえで無数の選択肢が広がっている。これからビスポークの共演が、これから我々にいかなるコーディネートを見せてくれるのか。興味は尽きない。

スのサルーンやスーパースポーツの足元を彩ってきた。その体制に自信があるからこそ、ロールス・ロイスの世界にも絶対に溶け込むものだと思ふ。

ロールス・ロイスは今でもビスポークと呼ばれるオーダーメイド生産様式が採られている。部品の供給問題から環境対応、衝突安全性など、ビスポークを続けるにあたって昨今の自動車生産は、昔よりもはるかに厳しい縛りがあるにも関わらず、幅広い選択肢とパーソナライゼーションはブランドの真髓であり、独自の顧客サービスとあり方」とロールス・ロイスは公言してきた。

そうした考え方は、ハイパーフォードにも同じことが言える。基本となるデザインを複数用意しつつ、最高峰の国産鍛造技術とマルチピース製法の強みを活かして、可能な限りサイズや仕様を細かく設定する。ほとんどの銘柄において、下は19インチから上は22インチまでの範囲で、最大で14・0Jまでのオフセットが0・5J刻みで細かく設定できることが出来る。さらにインナーおよびアウトタリムにディスクまで、異なるカラーやフィニッシュで仕上げることも可能だ。車種やコーディネート、固有のカスタム具合を見越して最適なチョイスが可能となる。まさにロールス・ロイスのビスポーク体制とそっくりである。

互いのビスポーク体制のコラボレーションが、ここにお見えたレイスだ。レイスはロールス・ロイス



回転方向に対して角度の設けられたディスクデザインを持つ左右非対称デザインを持つHF-DiC。このレイスに装着されるのは前後とも10.5J×22インチ。ハイポリッシュのアウターリムとミラーポリッシュのディスクでロールス・ロイスの優美な雰囲気を際立たせた。

